OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒565-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

平成１４年６月（2002年）No. ４３８

ビデオ作品コンテスト審査の一試行

ビデオ作品コンテストが各地方主催分も含めて、全国的にみて可成り多くなってきたように思います。コンテストにも個性があり、あの作品が何故トップ入賞？と思える作品もありますが、どうやら審査員の顔ぶれによって大きく左右されるようです。

一方、私達もクラブ内のコンテストで腕を競い合う、ということもやっていますが、この場合は、第三者の審査員を置くというものではなく構成メンバーの出席者による互選で行うのが一般的のようです。スチール写真などの場合は、出品者の名前は伏せて互選しますので、さほど問題はありませんが、ビデオ作品の場合は出品者の名前が判ってしまいますので、いろいろと課題があるようです。出席者１人３票の持ち点で、自分の作品に１票を投じるのは当然として、残りの２票を誰の作品に入れるかは、人によっては、自分の作品が入賞するための手段として、必ずしも客観的に優秀な作品と認められる作品には入れないといった作為もしばしば耳にします。作品の評価は主観的なものですから、いちがいに問題とは言えませんが、客観的に公平性からみて課題が残ります。そこで、今度の OMC 小豆島作品コンテストでは、出品者を除く出席の会員さんに審査して貰うことを試行してみたいと考えています。恐らく出品数が 10 本として 15 名位の審査員になるでしょう。審査員の審美眼に期待したいところです。

会長　合原一夫

６月例会は第３土曜日１５日

「日本を縦断する映像発表会」の会場が、第４土曜日しか確保出来なかったので、ＯＭＣ例会はやむを得ず、第３土曜日**１５日**になります。お間違えないよう願います。小豆島撮影会作品コンテストを先行して行いますが、時間の許す限り一般作品も上映しますので、作品をお持ち下さい。お待ちしています。

偶数月なので、作品研究会を行う予定でしたが、７月例会日まで延期します。公開映写会出品作品を特に歓迎します。

撮影会作品、作っていますか

今年は、例年より早目に季節が移り変わっていくのか、５月例会日の２５日は、もう暑いほどの気候でした。小豆島撮影会へ参加された方は、今頃まだ作品づくりの最中だと思いますが、頑張っていい作品をつくって下さい。作品構成として、お遍路さんと、農村歌舞伎、それに関連の薄い大阪城残石、この三つの主対象をどのように作品の中に採り入れるかが難しいところです。一つだけに絞ってまとめるのが一番容易なやり方ですが、せっかく撮ってきたものを捨ててしまうのも惜しい気がして、という向きの方もいることでしょう。もっともこの際三つのテーマ､それぞれ１本づつ、３本の作品をつくってしまえ、というやり方も考えられますね。（もっともコンテストは１本だけですが）

とにかく、めったに行けない小豆島の映像素材ですので、出来るだけ陽の目を見させてあげましょう。６月例会での公開コンテストが楽しみです。

日時が少なくて大変でしょうが、皆さんひとつ頑張って出品してください。出品者には漏れなく DV テープを努力賞として贈呈します。むろん無論、優秀作品には記念品のほか、公開映写会で上映いたします。

５月例会のレポート

５月の例会は２５日の午後６時より何時もの例会場で開催しました。司会、関さん、書記、有村さん、デッキ係に増池さん、江村さん、受付兼証明係を安居良枝さん、渡辺さんの担当で進行しました。

◆出席者：森、関、安居利、安居良、江村、那須、有村、松本、森田、今井、増池、中尾　西村、奥、合原、渡辺、江藤、前田、藤原、吉岡、森下、片山、上総　花岡、進藤、岸　上、宮崎、森口の皆さん（敬称略）の２８名と作品本数１１本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村博）

１）南禅寺界隈

増池　茂さん　７分００ 秒

精力的に沢山のカットを安定した画面でお撮りになっていて良かったと思います。最初蹴上のインクラインのトンネルから始まり参道を三門に至るまで雨が降っています。雨中の撮影で大変だったと想像しますが、この部分を思い切って省略しますとまとまる様に思いました。司会者も言われたように行った順番ではなく、水路閣などの琵琶湖疏水、三門などをバラバラに出さずに夫々まとめて編集されるともっと良くなるように思いました。

２）祇　園

関　　剛さん　　６分００秒

高槻のクラブのミニ撮影会ともう一回行かれて撮影されたそうです。何時もの様に安定したアップを中心の画角はお見事です。四条大橋、托鉢坊、南座は場所の説明ですからこの作品では不要のように思います。ＮＨＫのポスターも抵抗があるように思いますが、私だけだったでしょうか。

３）バリ島ウブドの夜明け

今井　菱美さん　　４分００秒

観光地らしからぬ景色ばかりを集めて編集しておられます。早朝のしっとりとした情景が中々良かったと思います。日の出の前のアヒルのカットは例え順番通りでももっと後の太陽が出てからにした方が自然のようです。折角の風情にテンポの早いＢＧＭは合わないとのご指摘がありました。このような作品ではラストはロングカットが最良ではないかと思います。

４）妹夫婦のお引越し

安居　良枝さん　　９分３０秒

先般「妹」と題して発表された作品をクラブ仲間の色々な意見を取り入れられて、主人公のアップなど撮り足して再編集されました。その結果見事な記録映像が出来上がりました。画面が暗転して何年何月どんな事がありました。こんな事もありました。お身内にとっては貴重な記録です。ですが再度の暗転によって全体の流れがその都度途絶え、作者の妹さんご夫婦の出来事に対する主張が全く伺えなかった為、単なる記録に終わったのが残念でした。

５）天神丸

安居　利次さん　１０分００秒

天満の天神さんの倉庫に長い間バラバラ状態で放置されていた飾り船が見つかり、それを組立てて曳行、住まいのミュージアムに展示する為に再度解体、組立を行なった様子を克明に撮影されて作品にしておられます。地車や布団太鼓のように人が乗る物でもなく、それ自体が曳行出来る物でもないので何が目的で作られたものか今ひとつ判らないそうです。大阪市主催のコンテストの特賞物でしょう。

6）なばなの里

渡辺　雄史さん　5分09秒

三重県桑名市の長良川河口堰の近くにある花の庭園に行って撮影されました。主にベゴニアガーデンの温室が中心で美しい花々が次々に出てきます。軽快な音楽に乗せて適当に観客を交えながらの編集にご苦心の後が伺えます。楽しく見せて頂きました。

7）春うらら石山寺

森田　光春さん　4分10秒

梅の花咲く早春の風情を撮影してこられました。もう少しじっくりと見られる様にカットを長めにされて特にお寺の描写のカットが短か過ぎたとのご指摘がありました。瞬間に出てすぐ消える絵を「絵残り」とか「切り損じ」と言いますが、ちょっと注意しますとコンピューター編集では起こらない事ですので、次回からよろしくお願いします。

8）上高地と穂高

有村　博さん　4分36秒

朝 10 時に大正池に到着、お昼までに河童橋まで歩いて撮った映像で作ったものです。いくら山好きといってもこんなに同じ山並みばかりに目がいった撮影には帰ってからの反省しきりでした。おかげでカット不足で不満の残る編集になりました。

9）車窓から

江村　一郎さん　5分07秒

高知から岡山へ走る特急列車「南風」号の向かって右側の窓からの様々な情況が描かれます。四国山脈を抜け、讃岐平野を走り、瀬戸大橋を渡り、本土に入った頃やおらカモメが飛びます。それも進行方向の逆に悠然と飛びます。パソコンによる合成とは気付くのですが、その突拍子に驚きます。そのカモメと飛び去る景色の合成にストップをかけてエンドにすればどうでしょうか。江村さん独特のこれは芸術です。驚いて感心しました。

10）炭に生きる

合原　一夫さん　14分56秒

兵庫県川西の山中に夫婦、親子で炭焼きをしている今西勝さん一家が居ます。原木の切り出しから窯入れ、炭焼き、収穫と何回か現場に足を運んで撮影されたのでしょう。炭が焼き上がるまでの工程が詳細に描かれています。特にまだ熱い竈の中に入っての撮影は特筆すべきでしょう。出来る迄映画の大作だと思います。後はこの一家との交流の中で家庭生活にまで踏み込んでの取材が出来れば、見事なドキュメンタリー映画になるのではないかと思いました。

11）梅もぎ

宮崎　紀代子さん　2分30秒

近所のお寺さんの畑で信者さん達が手伝って梅の実をもぎ取っている所を撮影してこられました。ちょっとお目にかかれない珍しい被写体で良かったと思います。同じ時期の他の風景や出来事の中にこの場面を挿入して作品作りをされますと楽しいビデオ作品になるのではないでしょうか。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて２次会を楽しみました。

あの美人オペレーターは今？

６年も前の古い話で恐縮だが、ある日ソニーから業務用機器展示会の招待状が届いた。業務用はなんでも高価で簡単に買える代物ではないが、急速に進化しつつある映像機器の知識をすこしでも得ようと行ってみることにした。当時はＤＶカメラが普及しはじめたころで、ＤＶシステムはパソコンによる編集が建前であることは雑誌やカタログなどで知っていた。しかしアマチュアでノンリニア編集というのは、まだほんのひと握りの人しかいなかった時代だ。

会場は中津の梅田スカイビル。教育、音響、映像など目的別に分けた２０あまりのブースがあり、どこも人でいっぱい。人気の高いのはやっぱり映像関係で、なかでも

ＥＳ－７とＤＶＣＡＭのフルセットを動かして見せるノンリニア編集システムのコーナーは黒山の人だかり。幅およそ２メートル、奥行９０センチ位の専用デスクにビデオ用とパソコンのモニター、それにキーボードと小型のコントローラーが並んでいる。たったそれだけ。ＥＳ－７本体とＤＶデッキは机の下、つまり脚の部分に収まった至ってシンプルなもの。

編集デスクの奥に８０インチほどの説明用モニターがあり、卓上のモニターとおなじ画面が写しだされて、見学者はおもにそれを見ている。解説に当るのは二人。一人は男性でマイクを片手に、システムの操作方法と画面の説明。もう一人は女性で、２０代半ばと思しき美人のオペレーター。モニターと向き合い、男性の解説に従ってパソコンを操作する役目。素材の映像はあらかじめディスクに取り込んであり、パソコンでカットの順を入れ換え、タイトルをつけ、そこにＥＳ－７に内蔵のＤＭＥスイッチャーを作動させて、そのエフェクト効果を見せるというもの。

初めはパソコン画面。ほほ笑みを浮べた美人オペレーターが解説に合わせて次々にマウスで入力していく。そして自動編集。キーボードをポンと叩くと選定した１０カットほどのタイムラインを細い縦線のカーソルがゆっくり右に移動する。つまり自動編集中の進行状況が一目瞭然というわけだ。それが終るとビデオ用モニターのリプレイ画面。編集後の映像が再生される。フェードイン、オーバーラップに始まり、動きを加えたタイトルのスーパーインポーズ、さまざまにエフェクト加工されたシーンが現われては消えていく。

複雑に組み合わさった映像が、あんな簡単な操作で生まれてきたのかと正直驚いた。それも女性オペレーターの、あのか細い指先からだ。（これ、失言だったかな？）

解説の男性は早口だったが、それに遅れることなくマウスで目的の場所にポインターを移すワザは電光石火、イベントの設定もピアニストがキーを叩く感じで瞬く間に完了。その手つきの鮮やかさに、モニターよりむしろそっちの方にしばしみとれていた。

この世界の移り変りは早く、ＯＭＣでパソコン編集をする会員は８割を越えた。まさかと思っていた私だが、時代の波に呑まれるようにノンリノアの仲間入りをさせてもらってもう一年が経つ。だが相変わらずマウスのポインターはアイコンの周りで右往左往を繰り返し、キーは一本の指で一字づつしか打てない。

パソコン操作に疲れて手を休めたとき、“みごとな手さばきを見せてくれたあの美人オペレーター。今はどうしているんだろう”と、ふと考えることがある。

（投稿　関）

■今月のインターネット例会作品は

今井さんの「バリ島ウブドの夜明け」です。

■インターネット情報

今年はＦＴＴＨ元年？

昨年はＡＤＳＬ元年といわれた年である。今年は、ＦＴＴＨ元年といわれる年になりはしないか？そんな気がします。

この欄で何度か予想したように、今年は光ファイバー事業の競争が本格的に始まる年になりそうである。光ファイバー事業の競争は関東より、関西が火付け役になるようである。なにしろＮＴＴ西と、関電（事業主体は子会社であるが）の両雄がガップリ四つ相撲を取ることになった。こんなに面白い対決はそう見られるものではない。ここはジックリと見物したいものである。

勝敗の行方を占うには、

①接続料金はどうか

②サービス内容はどうか：申し込んでから使用できるまでの早さ、サービスエリアが広いかどうか、顧客への対応がどうか等々・・・・。

③一番肝心なのは速度がどうかである。

・１００メガといっても、ベストエフォート方式のために、100Mbps が保証されている訳ではない。混雑時には当然速度は低下する。

・上り、下りの速度差がどうかということも大問題である。

（以下ネット版でご覧下さい。）